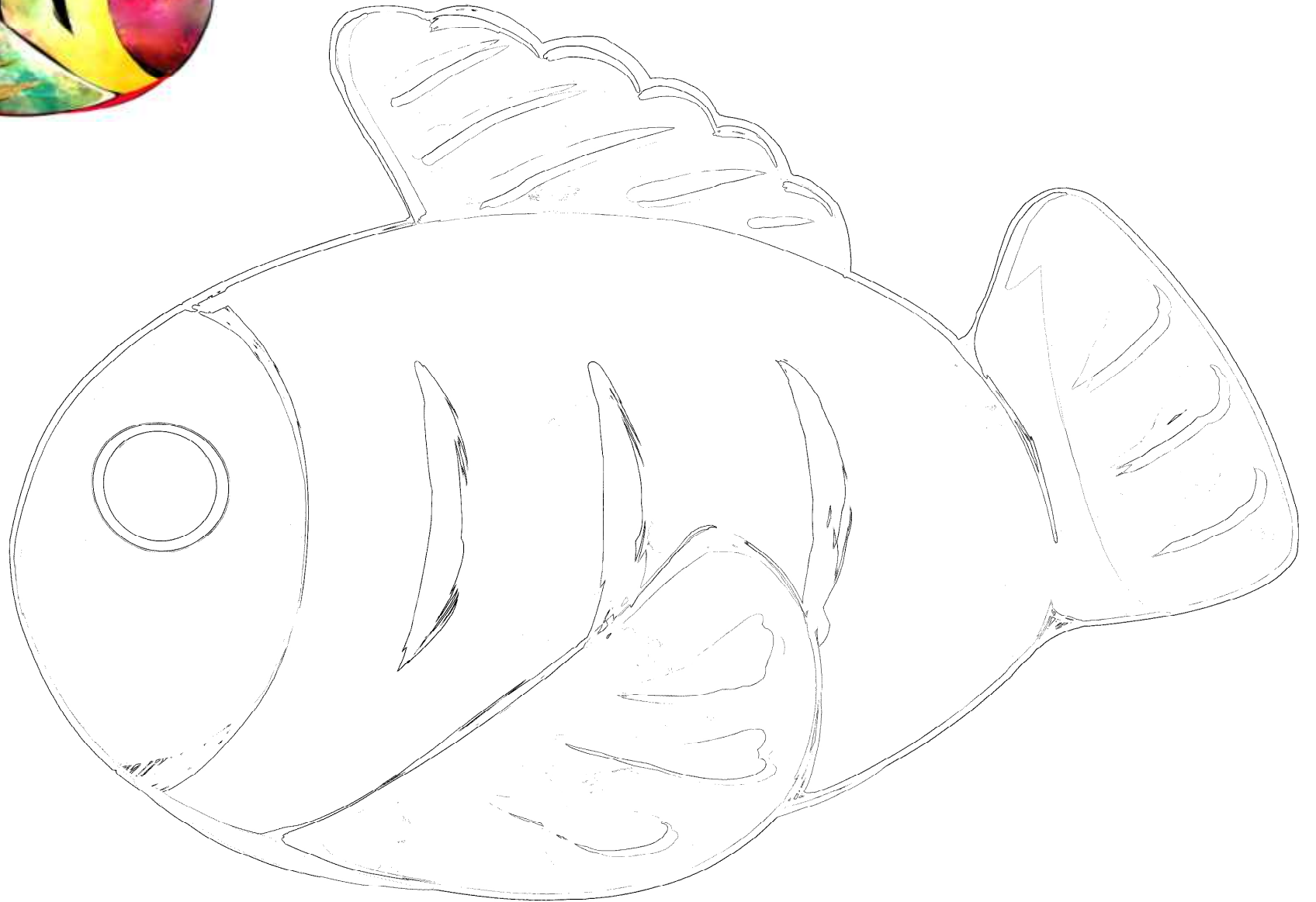




おぶなぬりえ





むかし宇都宮のある村に、天然痘(てんねんとう)というとてもこわい病気が大流行しました。村人は神様に「病気がなおりますように」といっしょうけんめいお祈りをしました。ある日、村人の一人が病気の人に食べてもらおうと田川で魚釣りをしたところ、鯉のように大きくて黄色い色をした不思議な鮒(ふな)をつり上げました。病人がそのふなを食べたところ、病気はあとかたもなく治り、再びその病気にかかることもありませんでした。後に村人たちは、このことを神様のおかげと感謝して病気除けとして、この黄ぶなの形をした物を毎年新年に神に供えるようになったそうです。



きぶな Wikipedia より